

奈良ゆかりのキャラクターグッズを集めた土産物店「絵図屋」の開店、若草山などを舞台に男女の出会いイベント・街コンを主催と、奈良を盛り上げる「仕掛け」で話題を集める奈良市の印刷会社「明新社」社長の乾昌弘さん(50)。地元活性化への思いを聞いた。

(聞き手・白石佳奈)

なら ヒト ト

Q 様々な企画を打ち出していますね。

単純に楽しいことが大好き。「奈良でなんかおもしろいことをやりたい」との思いからです。マスコットキャラクター「せんとくん」の一般向けの使用許可は、当社が初めて取得しました。奈良もちいどのセンター街の事務所シャッターに、せんとくんに対抗して地元住民が考案した「まんとくん」を一緒に描いたところ、大勢の観光客が訪れました。「キャラクターにこんな人に人を集める力があるの

印刷会社「明新社」社長 乾 昌弘さん 50

か」と2009年、事務所を改装して、奈良をテーマにしたキャラクター商品を集めた店を開きました。

町中の複数の店を巡って行う街コンは、「おいしいものがない」といわれる奈良にも色々な飲食店があることや、若草山や奈良町地区など雰囲気の良い場所も多いことを、地元若者に知ってもらう機会になると思いました。2月に

開催しましたが、場所を提供してくれた店主にも参加者にも好評で、また行いたいです。

Q 以前は地元それぞれ愛着がなかったとか。中学、高校と大阪で、大学は京都。奈良は寝に帰るだけ。繁華街や遊び場がなくつまらない場所とっていました。旅先で「どこから来ましたか」と聞かれると、「大阪です」と答えるほどでした。

企画次々「町を面白く」

でも25歳で父親の経営する印刷会社に入社し、青年会議所入りして考えが変わりました。行事などで各地を訪れる機会が増え、奈良では当たり前にあふれている日本を代表する寺社や文化財が、他の町ではそうそうあるものではないと知り、「奈良はすごい」と改めて感心しました。朝、奈良公園の飛火野の広い芝生が霧に煙り、鹿の影が浮かび

上がる――、こんな幻想的な光景を町中で見られる所は奈良しかないと思います。外から地元を見る機会が増えて、その良さに気付きました。

「奈良は修学旅行で行ったきり」と言われると悔しく、もっと奈良に人を呼びたい、地元の人にも良さを知ってほしいと思うようになりました。

取材後記

Q 3月には「当地ヒーロー」YAMATO超人ナライガーを送り出しました。

県内で開かれるイベントを取材するといつも会場に乾さんの姿があり、いくつの事業に関わっているのかと疑問に思っていました。約20ものイベントの実行委や商工関係の団体の役員を務めていると聞き、驚きました。

は、子供から大人まで楽しめます。そうめんや鹿せんべいなど特産品を使った得意技で悪者をやっつける姿に、地元への愛着もわくと思いつりました。

しかし、幼い頃は、幼稚園の卒園アルバムで「将来の夢の欄に家業を継ぎたいと書くなど「夢のない」、現実的なタイプだったそうです。「子供の頃、夢を抱かなかったら動で、今になって夢を追いかけているのかも」と笑いながら、50歳から始めたアルトサックスのことなどを楽しそうに話してくれました。

「おもしろいことをどんどんやっていきたい」と話す乾さん(奈良市で)



いぬい・まさひろ 1961年、奈良市生まれ。1983年、同志社大を卒業後、86年、明新印刷(現・明新社)に入社。2002年から現職。「平城遷都祭」や「なら燈花会(とうかえ)」などの開催で中心的役割を果たす。イベント運営ボランティアをまとめるNPO法人「奈良元気もんプロジェクト」理事長などを歴任。現在は、立ち乗り式電動2輪スクーター「セグウェイ」を使ったイベントを行うNPO法人「観光深耕(しんこう)風になろう」理事長などを務める。

若草山でのお披露目のショーでは、中年男性も子供と一緒に楽しんでくれました。県内の商工会などから「うちにも来て」といった要望が寄せられ、テレビ番組化の話もあります。

奈良は閉鎖的といわれるが、新しいイベントを企画すると反響が大きく、実は新しいものの好きの風土があると思います。「いつも何か新しいことをしている町」とも色々なイベントを仕掛けたいです。

楽しいです。